

323 卵巣癌と子宮癌患者の血清フェリチン値の臨床的意義

油井信春, 木下富士美, 小坪正木
(千葉がんセンター, 核医)

悪性腫瘍患者の血清フェリチン値が上昇することは既に知られて tumor-marker としての利用が注目されているが, 我々の悪性腫瘍患者についての経験では, 白血病, 悪性リンパ腫, 膀胱癌, 肺癌ではしばしば高値を示すものの一般的には, 血清フェリチン値の上昇から癌患者を早期に検出することは困難なことが多い。我々は血清フェリチン値の測定がどの程度臨床的に意義を有するかを検討する目的で卵巣癌と子宮癌患者について進行度との関係, 手術前後の変動, 治療後の経過と再発時の値について測定を行ってみた。現在までの結果では子宮癌患者ではあまり高値を示す頻度は高くなく, 進行度とも必ずしも相関しないが, 卵巣癌患者では進行しているものほど高い値を示す傾向が見られ, 末期になると異常に高い値を示すものが殆んどであった。血清フェリチン値を測定することにより術前に病期を診断することが困難な卵巣癌に於いて進行度を予測することも可能と考えられ, 又予後を推定する手掛りが得られるものと考えられる。更に ^{67}Ga によるシンチグラムや CEA α -フェトの値も併せて経過観察の手段としての意義も検討した。

325 各種悪性腫瘍疾患における血中 ferritin 値について。

飯尾 篤, 河村 正, 棚田修二, 石根正博, 最上 博,
片岡正明, 須本憲子, 浜本 研 (愛媛大, 放)

悪性腫瘍を含む各種疾患ならびに健康成人男女における血中 ferritin 値を RIA kit を用いて測定し比較検討した。対照は現時点で健康成人男子 16 名, 女子 13 名, 良性疾患としてバセドウ病 7, 慢性甲状腺炎 6, 肝硬変症 7, 糖尿病 8 名, 悪性腫瘍疾患として肺癌 26, 食道癌 9, 胃癌 9, 原発性肺癌 4, 乳癌 6, 子宮癌 8, 悪性リンパ腫 25 名であった。健康成人の平均値 ± 2 標準偏差を正常上限とした場合, ferritin 値の異常高値を示したパーセントは, 肺癌 58, 食道癌 44, 胃癌 11, 原発性肺癌 25, 乳癌 33, 子宮癌 13, 悪性リンパ腫 28%, 良性疾患では肝硬変症においてのみ 71% であった。更に遠隔転移例と ferritin 値との関係, 全症例における ferritin 値と CEA 値および β_2 -microglobulin 値との相関についても検討したので報告する。

324 子宮頸癌患者における血清フェリチン値について — Riagnost Ferritin kit と SPAC の検討 —

伊東久夫, 安藤 裕, 高木八重子, 久保敦司, 橋本省三 (慶大 放) 与那原良夫 (国立東 2, RI)

子宮頸癌患者血清中のフェリチン値を Riagnost Ferritin kit と SPAC を用いて測定した。健康人 45 例では前者の値が後者より高値を示すが, その相関数は 0.7 で 5% の危険率で有意の相関が認められた。子宮頸癌患者 80 例については, いずれの kit を用いても初期癌では低値であり, 進行癌になるほど高値を示す傾向がみられた。したがって, フェリチン値の測定は初期癌の検出に有力な手段とはならなかった。子宮頸癌患者における両 kit の測定値は大部分で相関がみられたが, 約 10% に著しい差異を示す症例があり, その多くは SPAC により高値を示した。

33 例の手術を行った患者について, 手術標本より原発巣の腫瘍の大きさ, リンパ節転移や子宮旁結合織への浸潤の有無と, 両 kit によるフェリチン値の関係を検討した。腫瘍の大きさや広がりやフェリチン値の関係はいずれの kit を用いても明瞭ではなかった。

患者の血清鉄値とフェリチン値の相関はいずれの kit でも認められず, またフェリチン値/血清鉄値比を求め, 癌患者の陽性率を検討したが, フェリチン値単独による判定と比べて差違を明らかにできなかった。

326 各種悪性腫瘍患者における血中フェリチン値測定の臨床的意義。

三橋紀夫, 岡崎 篤, 早川和重, 中野隆史, 青木典子, 新部英男, 永井輝夫 (群大 放)

各種悪性腫瘍患者における血清フェリチン値の測定の臨床的意義について検討する目的で, スパック・フェリチン・キットを用い, 血清フェリチン値の測定をおこなった。

対象は昭和55年1月から6月までの6ヶ月間に当科を受診した患者のうち, 悪性腫瘍患者 173 名 (乳癌 47 名, 肺癌 41 名, 子宮頸癌 18 名, 頭頸部腫瘍 16 名, 悪性リンパ腫 14 名, 食道癌 11 名など), 良性疾患患者 15 名, 計 188 名とした。さらに健康人 32 名を加え, のべ 340 検体について測定をおこなった。

陽性値を男子 200ng/ml, 女子 150ng/ml 以上とすると悪性腫瘍患者全体の陽性率は 28%, 良性疾患患者 27% となり, 悪性腫瘍のスクリーニングとしての, フェリチン値測定の有用性はその検出精度から考えてうすいように思われた。

しかしある特定疾患について役立つかどうかについてみると, 悪性リンパ腫, 消化器系癌で CEA と異なった点で興味があり, 特に悪性リンパ腫においては, CEA の補助診断として使いうるよう思われた。

また経時的測定により放射線治療効果との間に相関が認められた。